

カンキツ緑かび病に対するイミノクタジンアルベシル酸塩水和剤の防除効果

カンキツ緑かび病に対するイミノクタジンアルベシル酸塩水和剤（商品名：ベルコートフロアブル）と MBC 殺菌剤の混用散布は、イミノクタジン酢酸塩液剤（商品名：ベフラン液剤 25）と MBC 殺菌剤の混用散布と同等の防除効果がある。

農業研究センター果樹研究所病虫化学研究室（担当者：中村桂介）

研究のねらい

カンキツ栽培では、緑かび病等の貯蔵病害への防除対策として MBC 殺菌剤（商品名：ベンレート水和剤またはトップジンM水和剤）とイミノクタジン酢酸塩液剤（以下、ベフラン液剤 25）の混用散布が実施されてきた。これは、それぞれの薬剤を単用散布するより混用することで防除効果が向上するためであり、本混用散布はカンキツ産地で広く普及している。

ところが、ベフラン液剤 25 の農薬登録が 2025 年までに失効することとなったため、本剤の代替薬剤を選抜することが急務である。そこで、ベフラン液剤 25 に類似した作用機作を有するイミノクタジンアルベシル酸塩水和剤（以下、ベルコートフロアブル）について、MBC 殺菌剤との混用散布によるカンキツ緑かび病の防除効果を明らかにする。

研究の成果

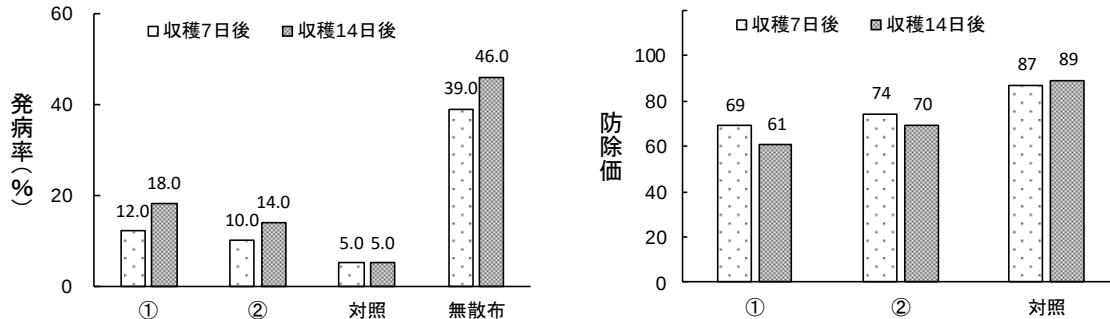
1. カンキツ緑かび病に対して、ベルコートフロアブルは MBC 殺菌剤と混用散布することで、ベフラン液剤 25 と MBC 殺菌剤の混用散布と同等の防除効果がある（図 1）。
2. ベルコートフロアブルの希釈倍数は、1,000 倍と 2,000 倍で防除効果に大きな差はない（図 1）。
3. カンキツ貯蔵病害の防除において、ベルコートフロアブルはベフラン液剤 25 の代替薬剤として活用できる。

成果の活用面・留意点

1. カンキツ貯蔵病害に対してベルコートフロアブルを使用する場合、単用散布では効果が不十分となる可能性があるため（データ略）、MBC 殺菌剤と混用する。なお、今回使用した MBC 殺菌剤はベンレート水和剤であるが、トップジンM水和剤でも同様の防除効果が期待できる（データ略）。
2. カンキツ貯蔵病害（緑かび病）の農薬登録を有するイミノクタジンアルベシル酸塩水和剤は、ベルコートフロアブルとベルコート水和剤がある。なお、ベルコートフロアブルは、低温条件（5℃以下）では増粘・固化によって容器から取り出しにくくなるため、冬季は使用前日から暖かい室内で保管する等、取扱いに注意する。

- （試験区） ①：「ベルコートフロアブル 1,000 倍」＋「ベンレート水和剤 4,000 倍」
 ②：「ベルコートフロアブル 2,000 倍」＋「ベンレート水和剤 4,000 倍」
 対照：「ベフラン液剤 25 2,000 倍」＋「ベンレート水和剤 4,000 倍」

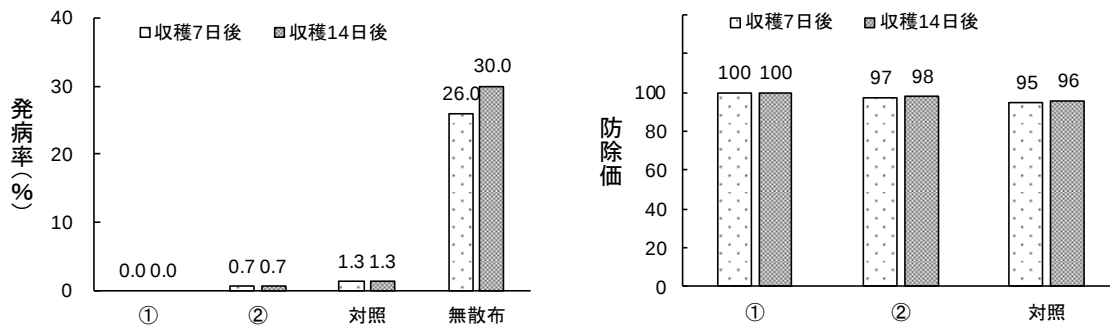
<極早生温州>



【試験概要】

品種：「豊福早生」露地栽培（27年生） 区制：1区1樹2反復 薬剤処理日：2022年10月11日
 調査方法：2022年10月18日に50果／樹採集し、収穫当日に果実の赤道部4か所に2mmの深さで付傷した後、一果実ごとにポリ袋に入れて室温25℃で貯蔵。
 貯蔵開始から7日後と14日後に発病有無を調査し、発病率・防除値を算出した。

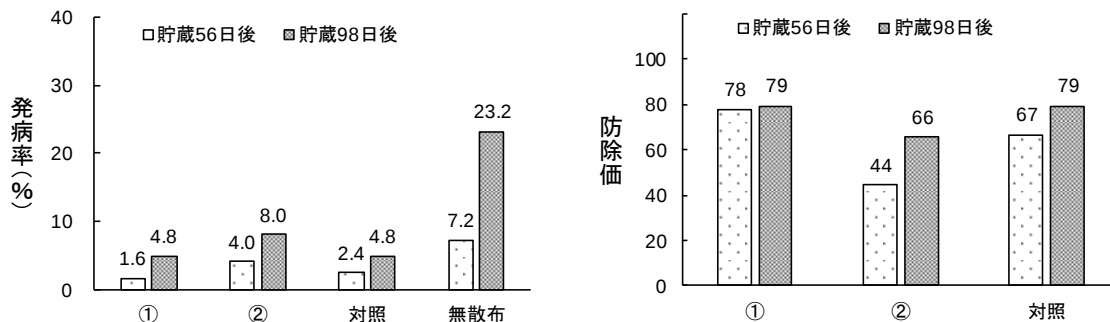
<早生温州>



【試験概要】

品種：「興津早生」露地栽培（8年生） 区制：1区1樹3反復 薬剤処理日：2023年11月14日
 調査方法：2023年11月21日に50果／樹採集し、収穫当日に果実の赤道部4か所に3mmの深さで付傷した後、一果実ごとにポリ袋に入れて室温25℃で貯蔵。
 貯蔵開始から7日後と14日後に発病有無を調査し、発病率・防除値を算出した。

<不知火>



【試験概要】

品種：「肥の豊」露地栽培（15年生） 区制：1区1樹5反復 薬剤処理日：2023年12月6日
 調査方法：2023年12月20日に25果／樹を収穫し、15日間予措を行った後、2024年1月5日に果実が入ったコンテナごとポリ袋に入れ袋の口を閉め常温貯蔵庫にて貯蔵。
 貯蔵開始から56日後と98日後に発病有無を調査し、発病率・防除値を算出した。

図1 カンキツ緑かび病に対するベルコートフロアブルとベンレート水和剤の混用散布の防除効果（左：発病率、右：防除値）